～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

〔令和6年度実施地区〕 鶴岡市三瀬地区

■実施体制

●実施主体：三瀬地区自治会
●アドバイザー：鈴木 淳 氏（かさなりデザイン合同会社）
●コーディネーター：庄内総合支庁農業振興課
　　　　　　　　　庄内総合支庁農業技術普及課

■地区のプロフィール

●地区内の戸数：４９０世帯
●主な被害作物：水稲、イモ類、柿など
●主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ

1．取組のきっかけ

● 市の西部に位置する三瀬地区は、日本海に面し、背後は山に囲まれた地域である。令和２年１２月に集落内でのクマの出没が相次ぎ、その誘因原因となった未収穫の下記の伐採に取り組むなど、鳥獣対策に意識の高い地域である。
● 近年、イノシシが目撃されるようになり、圃場の掘り起こしや農作物被害が増加傾向にあったため、令和５年度の本事業でイノシシの生態に関する研修や鳥獣出没マップ作成、侵入防止柵の設置研修を行った。
● 地区の鳥獣対策の取組み方針について、専門家のアドバイスを受けながら、より内容を深めていくため、本事業を継続して実施することとした。

2．取組の内容

※WM柵＝ワイヤーメッシュ柵

●事前打合せ（6/13、10/1開催）
　アドバイザー、自治会、県、市職員が集まり、研修内容や今後のスケジュールについて打合せを行った。
●第１回研修会（10/30開催）
　令和5年度に本事業で設置したWM柵の冬期間の状況、地区内の鳥獣被害や対策の現況について共有した。
　次回のWM柵設置研修に向け設置場所を確認するとともに、周辺の放任果樹やイノシシによる水稲被害の現場を確認し、鳥獣被害を受けやすい環境について理解を深めた。
●第２回研修会（12/2開催）
　WM柵の設置方法をおさらいし、農業ため池周辺に柵を設置した。竹を活用した地際補強の方法など技術的なアドバイスもいただき、今後の柵の維持管理につながる学びを得た。
●第３回研修会（12/25開催）
　令和5年度に作成した鳥獣出没マップを活用し、鳥獣の移動経路と考えられる場所への広域柵の設置を見据え、現地確認を行った。WM柵の設置が可能な環境か、出入口をどうするかなどを地区住民で話し合い、柵の種類や設置ルートについて意見を出し合った。
　その後、「対策計画シート」で年単位の被害対策について検討した。

WM柵の設置研修

設置ルートの検討

3．課題と今後の展望

● 集落に寄せない（環境整備）、被害を防ぐ（被害防除）、それでも寄ってくる個体は捕獲するということを方針に、集落が一丸となって、それぞれの対策を多角的に進めていきたい。
● 広域柵の設置場所や維持管理のポイントを学び、被害防除の取組み方針がより具体的になった。本事業で作成した鳥獣出没マップや対策計画シートなどを十分活用し、今後の鳥獣対策に取り組んでいく。